

道徳科学習指導案

主題名「ちがうってすてきでしょ」 内容項目：B－（１１）相互理解、寛容〔第３学年及び第４学年〕
令和６年１２月５日（木）第５校時 視聴覚室

I 授業の構想

1 価値観および児童生徒観

価値観	児童観
人は一人一人違っている。だからこそ多様な考えが生み出され、豊かな社会をつくることに繋がっている。学校という集団生活の中でも、異なる考えや嗜好をもっている互いを受け止め、理解し合っていくことで、自己理解・他者理解に留まらず、子ども自身がよりよい関係を築いていくことに繋がっていく。 本主題は学習指導要領B－（１１）「相互理解、寛容」第３学年及び第４学年「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること」を中心価値としている。この時期の子どもたちは、それぞれに違いがあることを理解している。しかし、一方的な思い込みや相手との些細な違いや差を受け止められず、トラブルに発展してしまうことも少なくない。その一方で、考え方が柔軟で多様性への理解もしやすい時期と考えられる。そこで、自分と異なる点について理解し合っていくことのよさに触れることで、相互理解の大切さに気付けるようにしたいと考え、本主題を設定した。	削除

2 教材観 「りつとにじのたね」（出典：光文書院）

かわいいものが大好きな男の子のくまのりつは、他の男の子（ソラタたち）から受け入れてもらえず辛い思いをする。にじの国で出会ったねずみのチウの言葉「ちがうってすてきでしょ」をきっかけに、りつはソラタたちとの違いを受け入れ、互いの違いを生かし合うことができるようになる、という内容の教材である。

本時では、りつの流した２回の涙の意味や、くまの国に戻る決意をしたりつの心情、りつにシャツを直してもらったときのソラタの心情について考える。このことは相互理解のためには他者と自分との違いを受け止め、受け入れたり伝えたりすることの必要性に気付くことにつながる。また、りつとソラタたちの両者の変化に目を向けることで、自分と相手には違いがあり、その違いを理解して生活するよさに気付くことにつながる教材である。

3 指導方針

視 点	指導方針
自分との関わりで考えるために	- 導入でアンケート結果を提示することで、自分と友達には違いがあることや、違いがあることで不安に感じている人がいることに気付かせる。また、本時の主題となる「ちがうってすてきでしょ」と、自分自身の感じている不安との差異を実感し、問題意識をもつことができるようにする。 - 教材の範読前に主人公りつの姿や「かわいいものが大好きな男の子」という特徴を伝えることで、自分とりつの特徴やソラタたちの気持ちを重ねて考えることができるようにする。 「りつはくまの国に戻るときに、どのようなことを考えていたのだろうか」と問うことで、違いがあること、りつがソラタたちと自分の違いを受け止め、受け入れていこうとしている思いに気付くことができるようにする。 - 振り返りでは、導入で提示したアンケートの結果をふまえて考えさせることで、自己の変容を捉え、これからの生活に生かせるようにする。
多面的・多角的に考えるために	りつがくまの国に戻るとき思いやソラタがりつにシャツを直してもらったときの気持ちについて、考えさせることで、互いの違いを生かしていることや、相互理解のため

	には、相手を理解するのみならず、自分の考えや意見を伝えることの大切さにも気付くようにする。 ・児童の意見に対して、「なぜ？」と根拠を聞いたり、その児童が発言した理由を別の児童に問い返したりすることで、なぜ自分はそう考えたのか深く考えたり、自分のこれまでの経験と照らし合わせて考えたりできるようにする。 ・グループで考えを出し合う活動を行い、他者の考え方を知り、異なる考えや意見を大切にするよさを実感できるようにする。
--	--

本授業では、〇〇小学校の人権教育目標「自他を大切にし、認め合える児童を育成する」という目標に迫ることができるように、道徳科の授業を要に、前後において他題材や学活と関連させて指導を行うこととした。他題材、教科との関連は、以下のとおりである。

	日時	学習活動（◎：ねらい）
事前の活動	9月中旬 (運動会前)	学活「自分のよさを知ろう」 ◎互いの長所を認め合う活動を通して、自己理解を深める。
		道徳「世界一うつくしい体操を目指して—内村航平—」【A 個性の伸長】 ◎自分自身のよさを理解し、それを磨いて伸ばしていこうとする。
	11月下旬	道徳「泣いた赤おに」【B 友情、信頼】 ◎友達のことを心から思いやり、自分にできることを精一杯しようとする。
本時	12月上旬	道徳「りつとにじのたね」【B 相互理解、寛容】 ◎自分と相手には違いがあることを受け止め、理解し合って生活していこうとする。
事後の学習	12月中旬	道徳「思い切って言ったらどうなるの？」【A 善悪の判断】 ◎自分が正しいと思ったことは、自信をもって実行していこうとする。

4 人権教育との関わり

本授業を通じて、人権教育の重要課題における「子どもたち」に関係する学習として取り組んでいく。また、本授業及び前後の学習を通して、〇〇小学校の人権教育目標「自他を大切にし、認め合える児童を育成する」に迫ることができる。本主題のねらい「互いの違いを受け止め、理解し合っていくこと」は、「自他を大切にすること」に繋がっている。周囲の友達との違いや違いがあつて当たり前ということを理解し、相手を受け止める大切さを考えさせることは、子どもたちの豊かな人間関係づくりの基盤となるであろう。

Ⅱ 本時の学習

<ねらい>

登場人物の変化について考えることを通して、自分と相手には違いがあることを受け止め、理解し合って生活していこうとする態度を育てる。

<板書計画>

りつとにじのたね

「ちがうって
□□でしょ」
いい うれしい
すてき 当たり前

アンケート結果①

アンケート結果②

◎ ちがいをすてきと思えるには、どうしたらよいだろうか。

悲しむ
りつの
挿絵

かわいいものが
大すき

りつ
挿絵

ソラタ
挿絵

力もち

・またいじめられたらいやだな。

・ぼくのままでいいんだな。

・自分のすきなものはどうどうすきって言おう。

・ごめんね。

・自分とちがうからってわらうのはいけくないな。

・りつってすごいな。

・ぼくも、ぼくのときいなことでお返ししたいな。

自分のすきなものに自信をもつ

すきなものをどうどうと言う

自分とのちがいを笑わない

自分とちがうところを大切にする

ちがいを生かして助ける

〈人権教育の視点〉

- 知 性：相手と自分には違いがあることに気付き、その違いを理解し合って生活していくことのよさが分かる。
- 実践力：自分と相手との違いに自信を持ったり、相手への理解を深めたりし、よりよい関係を築いていこうとする。

＜展開＞

学習活動	指導上の留意点
1 本時で扱う道徳的価値について問題意識をもつ。（5分） T：みなさんに事前に聞いた、アンケートの結果をみましょう。 T：「①自分と友達とでは、どんなところがちがいますか。」 S：私は、見た目と好きな食べ物が違うと答えたな。 S：他の人が言う通り、足の速さや得意なことも違っているな。 T：「②他の人とちがっていることについてどう思いますか。また、それはなぜですか。」 S：不安やいやだと思っている人もいるな。 T：今日の学習のテーマは「ちがうって～～でしょ」です。どんな言葉が入るでしょうか。 S：いいことや、うれしいことかな。 S：すてきも入りそう。 T：ちがうことが不安やいやと思っている人もいるのに、ちがうっていいことやすてきなことなのでしょうか。 S：ちがいがあるのは当たり前だから…。	○自分と自分以外の人には多くの違いがあり、全てが同じ人などはいないことを気付くことができるように、外見だけではなく、好みや特技など様々なことが異なっていることを押さえる。【知性】 ○問題意識をもつことができるように、周りの人とはちがうことで不安になったことがある人がいることに気付かせる。 ○本時の主題となる「ちがうってすてきでしょ」と、自分自身や友達の感じている不安との差異を実感することで、問題意識をもつことができるようにする。
＜問題意識＞違いがあることはよいことだと思っていたけれど、みんなと一緒にの方が安心するし、違うことが嫌だと思ふこともあるな。	
＜めあて＞ ちがいをすてきと思えるには、どうしたらよいだろうか。	
2 教科書の教材文の範読を聞く。（5分） 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち交流する。（25分） ○2回の涙の理由について考える。 T：りつは2回涙を流していましたね。1回目の涙の理由は何でしょう。 S：ソラタたちに笑われて悲しかったから。 S：笑われたのは、ソラタたちとちがっていたからだね。 T：では、2回目の涙の理由は何でしょう。 S：にじの国でチウに会って「ぼくはぼくのままでいい」と分かったから。 S：ちがっていてもいいと思ったから。 ○りつがくまの国に戻るときの気持ちについて考える。 T：りつはくまの国にもどるときに、どのようなことを考えていたのでしょうか。 S：またソラタたちに笑われたらいやだな。 S：やっぱり自信がなくなってきたな。 S：ぼくはぼくのままでいいんだな。嬉しいな。 S：チウの「ちがうってすてきでしょ」の言葉に勇気をもらえたな。 S：自分の好きなものに自信をもとう。 ○りつにシャツを直してもらったソラタの気持ちを考える。 T：ソラタは、りつにシャツを直してもらったとき、	○範読する前にりつの外見や「かわいいものが大すき」という特徴を伝える。 ○1回目の涙は「ちがうことを理由に笑われた」ことが原因であると押さえることで、「ちがいが」に着目して考えることができるようにする。 ○2回の涙の理由について考え、にじの国にいれば安心であるがくまの国に戻る決心をしたことを押さえることで、りつが人と違うことに自信をもてたことや、その時の気持ちに気付くことができるようにする。 ○りつが自信をもった反面、不安を感じていることにも気付かせることで、人間的な弱さに触れ、自分と重ねて考えられるようにする。 ○くまの国に戻ったら、またソラタたちに笑われるかもしれないのにも関わらず、戻ろうと思ったのはなぜかと問い返すことで、りつが自分と他の人との違いに自信をもてたことについて理解を深められるようにする。 ○ソラタの考え方の変化や深まりに気付かせるため

どんなことを考えていたのでしょうか。 S：りつ、ありがとう。 S：自分とちがうからって笑ってごめんね。 S：りつってすごいな。 T：なぜ、すごいと思ったのでしょうか。 S：自分たちにはシャツを直すことはできないから。 S：今度はぼくの得意なことで、お返ししたいな。 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、めあてについてもう一度考える。（5分） T：ちがいをすてきと思えるには、どうしたらよいでしょうか。 S：自分の好きなものに自信をもって、どうどうと伝える。 S：自分とちがうからといって、いじめたり笑ったりしない。 S：ちがいを生かして助け合う。 S：自分とちがうところも大切にする。	に、意図的に指名をする。 ○なぜ「すごい」と思ったのか問い返すことで、りつとソラタたちのちがいに着目して考えることができるようにする。 ○「なぜ、ソラタは花壇を作ったのか」問うことで、ソラタ自身の得意（よさ）を生かして、りつを喜ばせようとしたことに気付かせる。【知性】 ○相互理解のためには、相手を理解するのみならず、自分の考えや意見を伝えることの大切さにも気付くことができるように、りつとソラタたちそれぞれの視点から考えるように促す。 ○班で話し合うことで、違いを理解し合って生活していくためには、具体的にどのようなことができるか考えられるようにする。【実践力】
5 これまでの自分の生活を振り返り、これからの生活を考える。（5分） T：違うことのよさとはどのようなことでしょうか。また、ちがいをすてきと思えるには、どうしたらよいでしょうか。初めの考えと比べながら、授業で考えたことを書きましょう。	○自己の変容が分かるような文章表現ができるように、「初めは」「授業で」「これから」の言葉を用いて文章を書くように促す。 ○導入で提示したアンケートの結果をふまえて考えさせることで、自己の変容を捉え、これからの生活に生かせるようにする。
<振り返り> はじめはみんなと一緒にの方が安心して生活できると思っていたけれど、授業でちがうからこそ助け合ったり、楽しくなったりすると気付きました。これからは、自分以外の人の好きなことや得意なことを大切にしたいし、自分だけの好きなことや得意なことにも自信をもちたいと思いました。	
<評価の視点>【ワークシート、発言】 ・登場人物の気持ちや変化について考えることを通して、自分と相手には違いがあり、その違いを理解して生活していくことのよさについて自分自身との関わりの中で、多面的・多角的に考えている。	